

小専社会第 4 回「地理院地図で見る身近な地域の地形」の作業内容と手順

- 作業内容：PC で地理院地図の標高データから段彩図を作成して、大阪市中心部の地形の特徴を読み取る。
- 手順：
- ①PC でブラウザ（Microsoft Edge や Safari などのインターネットを閲覧するソフトウェア）を起動する、
 - ②登録したブックマークから「小学校専門科目社会地理分野のページ」を開く。ブックマークに登録していない人は、Google 等の検索サイトで「山田地理研究室」を検索して、開いた「山田地理研究室」から「小学校専門科目社会地理分野のページ」を開く。
 - ③開いた「小学校専門科目社会地理分野のページ」の第 4 回の、記入用紙とある赤茶ボタンをクリックする。
 - ④そうすると、自動でダウンロードが始まるか、操作の選択（「開く」、「保存」等）を問う画面が、画面下部に表示されるので、都合の良いフォルダ（「ドキュメント」など）を選んで保存する。
 - ⑤保存したフォルダ（自動で保存された場合は、「ダウンロード」フォルダ等、各自の PC の設定によって異なる）を開いて、ダウンロードしたファイル「SHE04b_Worksheet_2020b」をダブルクリックする。
 - ⑥そうすると、Microsoft Word が起動して、記入用紙が表示される。画面上部に「編集を有効にする」というボタンが表示された場合は、そのボタンをクリックする。以上で、作業の成果を記入する準備ができたので、⑦以降の手順で、地理院地図を用いて作業を行う。
 - ⑦再び、「小学校専門科目社会地理分野のページ」に戻って、第 4 回の、地理院地図とある青ボタンをクリックする。
 - ⑧そうすると、地理院地図という Web サイトが別ウインドウで開き、大阪市とその周辺の地図が表示される（うまく表示されなかった場合は⑨へ）。次ページを参考にして、標高ごとに色分けした地図（段彩図）（0m 未満、0～5m、5m 以上の 3 色）を作成する。そして、その段彩図から大阪環状線全駅の標高を、読み取って、記入用紙にその標高を記入する。そして、作成した段彩図と読み取った標高を基に、「津波が来た場合に大阪市内のどこが安全か?」、「大阪城や四天王寺などの古くからある建造物は、どのようなところにあるか?」について、作業結果を基に考えて、その理由とともに記述する。
 - ⑨Google Chrome（グーグルクローム）で地理院地図を閲覧すると、うまく表示されない場合がある。うまく表示されなかった場合は、Microsoft Edge などの別のブラウザ（インターネットを閲覧するソフト）を使用して閲覧すること。

地理院地図による段彩図の作成とその透過表示

① 段彩図（標高によって塗り分けられた地図）の作成

地理院地図の画面左の「標高・土地の凹凸」をクリックする。そうすると表示される「自分で作る色別標高図」をクリックする。そうすると、色が並んだ小さいウインドウが表示される。このウインドウの数字と色を、以下のようにして変更する。まず、一番上の濃い青の左の「5」をクリックして、「5」を消して、

「0」を半角数字で入力する。その下にある青の右にあるバケツのアイコンをクリックする。そうすると、この色と数字が削除される。同じ要領で、水色と黄色とだいたい色を削除する。そして、緑の左の「100」を消して「5」を入力する。以上で、「0」の青と「5」の緑と数字なしの赤の3つになるので（右下图）、このウインドウの下部にある「上記の内容で地図に反映」をクリックする。そうすると、地図が3色に塗り分けられた状態になる。標高 0 m 未満のところが青で、0~5 m のところが緑で、5 m 以上のところが赤で、それぞれ塗り分けられている。



② 地図の透過表示

作成した段彩図は、大阪環状線が描かれた地図の上にあるので、環状線が見えない。このため、以下のようにして、段彩図を透過表示して、見えるようにする。まず、画面左下部にある「選択中の地図」にある「自分で作る色別標高図」の右にある「透過率」をクリックする。そうすると、スライダーが現れるので、それを操作して、透過率を50%にする。そうすると、下の地図が見えるようになる。

